

令和4年度 愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業

親子でアウトドア

1 ねらい

体験活動を通して、自然の素晴らしさ・体験活動の楽しさを実感する。親子のふれあいや参加者相互のふれあいを通して、豊かな心を育む。「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進する。

2 実施日

- 親子でアウトドア① 7月 2日(土) [午前]
- 親子でアウトドア② 7月 2日(土) [午後]
- 親子でアウトドア③ 7月10日(日) [午前]
- 親子でアウトドア④ 7月10日(日) [午後]
- 親子でアウトドア⑤ 7月17日(日) [午前]
- 親子でアウトドア⑥ 7月17日(日) [午後]



3 日 程

通常プログラム			荒天時プログラム		
午前	午後		午前	午後	
8:40	13:10	受付開始	8:40	13:10	受付開始
9:00	13:30	開講式・説明	9:00	13:30	開講式
9:30	14:00	移動 (交流の家→緑地公園)	9:20	13:50	ニュースポーツ①
9:50	14:20	カヌー体験 (平水版・ミニツーリング)	10:50	15:20	ニュースポーツ②
12:00	16:30	閉講式	12:20	16:50	閉講式
12:15	16:45	移動 (緑地公園→交流の家)	12:30	17:00	解散
12:30	17:00	解散			

4 活動場所

国立大洲青少年交流の家 愛媛県大洲市肱川

5 参加対象・募集人数

小学3～6年生とその保護者(親子等)・各回25組(50名程度)

6 参加者数

①7月2日 午前	②7月2日 午後	③7月10日 午前	④7月10日 午後	⑤7月17日 午前	⑥7月17日 午後
22組 46人	21組 46人	23組 52人	21組 47人	荒天により中止	荒天により中止
申込数:	申込数:	申込数:	申込数:	申込数:	申込数:
193組 453人	206組 478人	312組 745人	217組 503人	265組 626人	252組 606人

※荒天時にカヌーができない場合は、室内でニュースポーツを実施する計画を立てていた。しかし、県内において新型コロナウイルス感染症が急速に拡大したことを受け、感染対策を十分に講じていても安全に事業を実施できないと判断し、中止を決定した。

## 7 活動内容と参加者の様子を含む

### 【カヌー体験】「平水版」・「ミニツアーリング」

暑い中での実施となったが、参加者は指導者の話をよく聞き、カヌーの操作方法やカヌーの乗り降りの方法などを確認し合う姿が見られた。平水でのカヌー体験では、恐る恐るカヌーをこぎ出したり、最初から上手にこぐことができたりとカヌーの操作技術は参加者によって様々だった。各自、自然に親しみながら夏の大自然を楽しんでいた。カヌーに乗る際には親が子供のカヌーを支え、親子で協力する姿も見られた。活動の後半にはミニツアーリングを行い、参加者は大洲城を臨む肱川で雄大な自然に囲まれて、ゆったりとカヌーを体験していた。また、参加者同士で会話する姿も見られ、カヌー体験を通じてお互いに交流をすることができた。ミニツアーリングのゴール地点では、子供同士でカヌーを隣り合わせてサークルを作るなどして、集団でのカヌーの楽しみ方も体験した。そして、観光客などもよく訪れる大洲城周辺で行ったことで、多くの方にカヌーの様子を見ていただくこともできた。

運営に当たっては、全体の進行は国立大洲青少年交流の家の職員が担ったが、学生を中心とするボランティアや大洲市カヌー協会の協力を得て陸上監視や指導を行っていただき、安全管理についても万全の体制を整えて実施した。

また、開会式での挨拶などを通してカヌーの活動に関連付けながら、子供たちの健全育成に必要な体験活動の重要性、早寝や早起きをする事、朝食を食べることなど生活習慣を整えることの大切さを参加者に伝え、それらの意義の周知を図った。



## 8 参加者の声

事業後アンケート結果（家族：86組）

\*満足：95.3%    \*やや満足：4.7%    \*やや不満：0.0%    \*不満：0.0%

○普段体験できないことをすることができて楽しかったです。

○子供も大人も楽しめました。

○ツアーリングが楽しかった。

○子供の真剣な表情が見えました。

親子での参加にしたことによって、子供たちだけでなく保護者も一緒になってカヌーを楽しみ、子供の生き生きとした姿や頑張っている姿から野外活動や体験活動の良さや大切さを実感していただいたようだった。また、子供たちからはカヌーに乗りながら「水の中に何か生き物がいるよ。」とか「ここはものすごく深そう。」といった発言が聞かれ、自然のフィールドに興味や関心をもっている様子も見られた。

## 9 事業の成果と課題

地域の自然環境や人材資源を生かした事業を行うことで、子供だけでなく大人も自然や体験活動そのものへの興味関心を高めることができた。感染症や熱中症への配慮や対応は今後も状況に合わせて検討を続けながら、他にも様々な種類の体験活動や活動の方法を考えて体験の輪をさらに広げていきたい。

（担当：企画指導専門職 高木 啓吾）